

## 第3学年1組 総合的な学習の時間指導案

### 1 単元 「子どもの健やかな成長について考えよう」

#### 2 指導観

- 核家族化や少子化の進行により、子どもとふれあう機会がないままに親になる割合が増えている。育児ストレスや育児不安が増大し、子どもを育てにくい時代とさえいわれている。このような現状を受け、子育て中の保護者に対して「社会全体で子育てをしよう」という意識の高まりや様々な支援体制が整備されつつある。一方で、これからの子育てに関わっていく次世代の「親性や育児性（対子ども感情や子育てのイメージが肯定的になる）」を育成していくことの重要性が指摘されている。

教育基本法第11条（幼児期の教育）には、保育の環境について「幼児の健やかな成長に資する良好な環境整備に努めなければならない」とその重要性が述べられている。保育を行う環境には、「人的環境」「物的環境」「空間的環境」の3つの側面があり、それぞれが重要な役割を担っている。本単元では、味坂保育園での幼児ふれあい体験活動を通して、保育環境に関する現状と課題について探究させる。学習の進め方は、他者と協働して課題を追究する探究的な学習とし、生徒の思考力・判断力・表現力等を育成するとともに、よりよい保育環境を自分なりに考え、社会に参画していこうとする態度の育成にもつなげたい。

将来の生き方の基礎を培うこの中学生の時期に、このような幼児とふれあい体験活動を重視した探究的な学習を仕組むことは、総合的な学習の時間の改訂の趣旨を具現化するとともに、人間の成長・発達とそれに関わる家庭と社会の役割を認識することにもつながり大変意義深いと考える。

- 生徒は幼児とふれあう機会が少なく、同居している家族にも幼児はほとんどいない。「幼児ふれあい体験を楽しみにしていますか」の問いには、83%の生徒が「はい」と答えており、幼児に対しては好感を持っている生徒が多い。しかし、一方では「体験で不安なこと・心配なことは何ですか」の問いに「どのように接してよいかわからない」「何を話題にしたらよいかわからない」と答えた生徒は95%にのぼる。また、「保育園での生活でとくに大切だと思うことは何ですか」の問いには、62%の生徒が「遊び道具」、58%が「動植物」とのふりあい（飼育・栽培）」と答えており、「物的環境」の一部については関心を示している。しかし、その他の幼児を取り巻く様々な環境要素については考えが至っていない。
- 本単元では、幼児保育の現状と課題について考えることにより、家庭科で学習した幼児の生活に関する基本的な知識を活用して、適切な保育環境は、人的・物的・空間的環境の3側面から考える必要があることを理解させる。そして、各自が抱いた疑問や課題を解決するために収集した情報を分析・思考させ、自分なりの答えを導き出せる生徒の育成を目指す。

そのために指導にあたっては、まず、つかむ段階では、味坂保育園での体験活動を通して感じた疑問点や感想から追究したい課題を設定させる。その際、課題を焦点化しやすくするために、昨今問題視されている幼児を取り巻く人的環境・物的環境・空間的環境の現状と課題について考えさせる。次に、ひろげる段階では、各自が設定した課題を追究させる。ここでは、各自工夫した調べ学習によりレポートを作成させる。最後に、まとめる段階では、共通した課題ごとにポスターセッションを行い情報交流し、考えを深めさせる。

#### 3 目標

- (1) 適切な保育環境は、人的・物的・空間的環境の3側面から考える必要があることを理解するとともに、よりよい保育環境を自分なりに考え、社会に参画していこうとすることができる。  
【知識・技能：深い学び】
- (2) 保育環境の疑問をみつけ、その解決を目指して自分なりに工夫して新たな方法を考え、まとめることができる。  
【思考力・判断力・表現力：対話的な学び】
- (3) 幼児の生活に関心をもち、適切な保育環境を協働的に見だし、発信することができる。  
【学びに向かう力・人間性：主体的な学び】

4 単元指導計画（7時間）  
体

「学び合い」に関する内容はゴシック

段階	学習活動・内容	教師の支援	評価方法
	<p>1 事前学習を行う。【家庭科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園の予定、特徴</li> <li>・体験学習の留意点（心構え、服装や言葉遣い等）</li> </ul> <p>2 体験学習を行う。【家庭科】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の不安を緩和するために、味坂保育園よりGTを招いて事前学習を行う。</li> <li>○ 気づきや発見、疑問に思ったことをその場で記録できるカードを用意する。</li> </ul>	
つかむ 3時間 本時3/3	<p>3 感じたことを想起し、追求したい課題を設定する。</p> <p>(1) ふれあい体験を想起し、感じたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・印象に残ったこと</li> <li>・疑問に思ったこと</li> </ul> <p>(2) 幼児を取り巻く現状と課題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣の乱れ</li> <li>・運動不足</li> <li>・電子メディアの弊害</li> </ul> <p><b>(3) 課題設定する (B③7)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人的環境（大人との関わり、子ども同士の関わり）</li> <li>・物的環境（発達を促す遊具・教材と選択できる環境）</li> <li>・空間的環境（「遊」「食」「寝」の確保とゾーニング）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題を設定することができるように、幼児を取り巻く現状がわかる写真を提示した後、問題だと思える活動を設定する。</li> <li>○ 個別の疑問を集団の疑問にひろげるために、KJ法的手法を用い気づきや疑問を類型化させる。</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"><b>他者との対話を通して、課題を発見するような【対話的な学び】のために行う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題を見いだしやすくするために、タイトルやキーワードをもとに、話しあいを行わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 保育環境の課題をみつけることができたか。 【思考力・判断力・表現力】</li> <li>◇ 適切な保育環境は、人的・物的・空間的環境の3側面から考える必要があることを理解できたか。 【知識・理解】</li> </ul>
ひろげる 3時間	<p>3 自分が設定した課題を調べる。</p> <p>(1) 幼児を取り巻く現場の問題、背景を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化、核家族化、都市化</li> <li>・地域のつながりの希薄さ</li> <li>・テレビ、ゲーム</li> <li>・スマホによる子守り</li> </ul> <p>4 自分なりに工夫したり考えた内容をレポートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題点の背景と解決策</li> <li>・工夫された保育環境の事例</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 問題点を具体化するために、他の地域や国の保育環境と対比させる（工夫点・こだわり）。</li> <li>○ 多くの情報を得るために、図書室の文献やコンピューター室のインターネットの活用、近隣の保育園へのアンケート調査等を行わせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 保育環境の課題解決を目指して自分なりに工夫したり新たな方法を考えることができる。 【思考力・判断力・表現力】</li> <li>◇ 幼児の生活に関心を持ち、適切な保育環境を協働的に見いだし、発信することができたか。 【学びに向かう力・人間性】</li> </ul>
まとめる 1時間	<p><b>5 ポスターセッションを行い、自分の考えを深める。(C③7)</b></p> <p>(1) ポスターセッションを行う。</p> <p>(2) 再度、自己の考えをつくり直し、解決策を考える。</p>	<p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"><b>他者との対話を通して、自分の考えを発信できるような【対話的な学び】のために行う。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 根拠と主張がわかりやすいポスターを作成するために、構成のポイントを示す（見出し・キーワード、文字の大きさ・量、図や表のバランス）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 保育環境について自分なりの考えまとめることができたか。 【思考力・判断力・表現力】</li> </ul>

6 本時の主眼

- 幼児を取り巻く現場と課題を理解し、保育環境の課題をみいだすことができる。

7 本時の指導観

生徒は前時までの家庭科の学習で、味坂保育園での体験活動を通して幼児とのかかわり方を工夫することができている。家庭科の学習では、今後、体験活動での幼児の様子や保育士のかかわり方をまとめることで、幼児の心身の発達と生活やそれを支える家族の役割について理解を深める。総合的な学習の時間では、適切な保育環境について、社会や保育施設の視点から考え、積極的に社会に参画していこうとする生徒を育てたい。そこで本時では、幼児を取り巻く社会の現状と幼児教育の課題について、自らが探究したい内容を明確化することをねらいとする。

そのためにまず、つかむ段階ではふれあい体験を想起させ、感じたことを交流させる。ここでは、体験の際に記入したカードをもとに、自由に発表させる。次に、ひろげる段階では、保育に関する現代的課題について考えさせる。その際、幼児を取り巻く現場がわかるような写真や新聞記事を提示する。そして、KJ法的な手法を用い、個人の疑問や情報を集約・統合させ、新たな発想や根本的な問題を導き出させる。最後に、まとめる段階では、保育環境のキーワードとなる「人的環境」「物的環境」「空間的環境」の3つの側面から、個人の追究したい課題を具体的に設定させる。

8 本時の過程

「学び合い」に関する内容はゴシック体

学習活動・内容	教師の支援	形態	配時	評価の観点
1 保育体験学習を振り返る。 ・ 幼児のかわいさ、元気の良さ ・ 保育の難しさ、大変さ	○ 保育体験学習を振り返るために、生徒の感想を一部紹介してめあてにつなげる。	一斉	5	
(めあて) 子どもが育つ環境について考えよう。				
2 保育環境の課題について考える。(B③ア) (1) 現代的課題について考える。 ・ 夜更かしさせる環境 ・ 外で遊ぶことが少ない環境 ・ 電子機器等にたよった環境 ・ 地域とのつながりが希薄な環境 (2) 子どもが育つ環境の現状で気づくこと良い点や課題点に分けて付箋に書く。	○ 現代的課題につなげるために、家庭での保育環境の現状がわかるような写真・新聞記事などを提示する。	一斉	5	
3 付箋に書いた内容を班で交流し、KJ法で分類し、分類ごとに題名をつける。(C③ア)	○ 自分の考えを明確にするために、個別に思考する時間を設定する。 ○ 班活動円滑にするために、KJ法の基本的な進め方を示す。	班	15	◇ 幼児を取り巻く現場と課題を理解し、保育の環境の課題を見いだすことができたか。 【思考力・判断力・表現力】
4 まとめた内容を班ごとに発表する。	○ 良い点と課題点ができるように、2色の付箋と模造紙を準備する。		10	
5 保育環境は以下の3つに分類されることを知る。 ・ 人的環境 (大人との関わり、子ども同士の関わり) ・ 物的環境 (発達を促す遊具・教材を選択できる環境) ・ 空間的環境 (「遊・食・寝」の確保とゾーニング)	○ 幼児をより良い環境で育てるための課題を明確化するために、保育環境の3つの視点について図式化する。	一斉	5	
6 保育体験学習で、保育園が3つの環境でそれぞれどのような工夫がされていたかを思い出し、自分がより詳しく知りたい内容について、課題を設定する。		個	5	